

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：山国川における景観に配慮した河川整備について		
水系／河川名：山国川水系／山国川	河川分類：大河川	
河川の流域面積：540km <sup>2</sup>	整備計画流量：3650m <sup>3</sup> /s(W=1/30)	セグメント：M
事業：河川改修	事業開始年度 平成25年度	
目標設定：定量的	段階：D(実施・施工時)	
課題・目的(主な)：流下能力の確保、水際域の保全・再生・創出、自然河岸、河畔林の保全・再生・創出		
工法(主な)：掘削(河床)、樹木伐採、除根		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、施工管理、人材育成		

背景・課題、目標設定

【設計コンセプト】

◆多自然川づくりを実施した経緯

山国川は、「名勝耶馬溪」及び「耶馬日田英彦山国定公園」の指定を受けており、競秀峰、青の洞門をはじめとする景勝地を数多く有し、美しい自然環境が特徴的な河川であることから、流下能力の向上だけではなく、「景観」に配慮した川づくりを実施することが必須である。

◆目標

「山国川の美しい流れとその周辺の奇岩・秀峰が織りなす良好な河川環境との調和を図り、昔ながらの素朴な風景を後世に残すこと」をコンセプトとして、設計・施工に係わる技術者が一丸となって景観に配慮した河川整備に取り組む。

取り組み内容・対策例

「多自然アドバイザー会議」、「景観ワーキング」による景観検討体制を構築し、学識者の方々から景観や環境に関する基本的な川づくりの設計方針や、地区毎に川づくりへの助言を頂きながら、設計及び施工における景観の統一性を図ることを目的に、景観カルテを作成した。

また、景観カルテでの思想を施工現場に具体的に展開するため、パラペットの表面・端部処理や石積みの方法・天端処理、河道掘削面の仕上げ等について、事例写真や具体的な施工方法を記した施工要領図(山国川ルール)を作成し、工事監理連絡会を活用して、設計時の景観検討の内容やデザイン思想を的確に施工者に伝達し、施工時の留意点を関係者で共有した。

経年的に取り組みを継続してきたことにより、景観に配慮した河川整備に対する意識が浸透し、受注した元請け企業のみならず、個々の作業員にも思想を共有する取り組みや施工時において様々な工夫がされるようになった。

その取り組みの一つとして、岩掘削の際に模型を作成し、関係者で議論しながら完成イメージを共有するとともに、ICT技術を用いてできる限り忠実に模型を現場に反映させ、周辺景観と調和した整備を行っている。

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

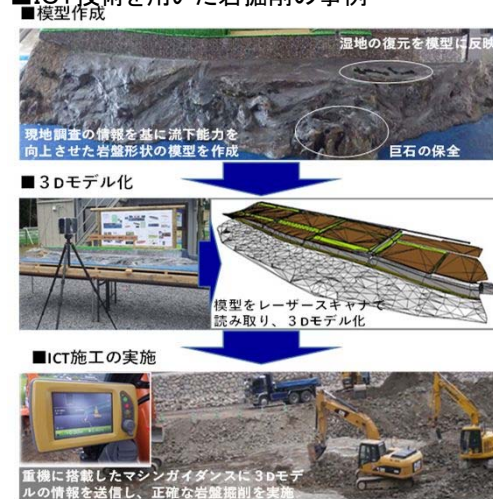
■山国川ルールにおける施工時の留意点(例)



■施工事例



■ICT技術を用いた岩掘削の事例



備考

問い合わせ先 九州地方整備局 山国川河川事務所 中津出張所  
電話番号 0979-22-0103